

福岡県立山門高等学校

同窓会だより

《第3号》

発行：山門高校同窓会
平成12年3月1日
事務局：山門高校内
TEL 62-4105

山門高校同窓会会長

板橋元昭

後輩に誇りと自信と勇気を

同窓生の皆様には、日本国内はもとより世界各地で今年もお元気に活躍のことと存じます。今年も千年に一度のミレニアムの年です。近代日本の幕開けから、富国強兵の時代を経て、戦後の復興そして高度経済

成長へと歩みを進めたこの百年、激動の二十世紀もいよいよ終わります。宇宙の悠久の時の流れに比べ、人間の一生はほんの一瞬に過ぎませんが、西暦一千年代が終わり二千年代が始まるこの時に偶々生を受けている自分の人生の不可思議を感じずにはおられません。

平成11年の同窓会総会



今やインターネットに代表される通信システムの脅威的な発達で情報は瞬時に世界を駆けめぐり、人工衛星の進歩で宇宙空間の利用が現実のものとなり、宇宙の謎すら解明される可能性が感じられる様な時代になりました。しかし私達の住む地球では六十億ともいわれる人類がいろいろな地域で民族や宗教の異なるる殺戮をくり返し、貧困との戦いもあとをたたくず決して平穏な状態ではありません。日本国内に於いても経済成長のお蔭で生活環境が豊かになった反面人間性の荒廃を感じざるをえない世相が横行する様に

なりました。家庭学校社会をひたすらめぐる教育の見なおしの必要性がいわれるのであります。私達の母校山門高校の校長室に、夏目漱石の「教育は建国の基礎、師弟の和熟は育英の大本たり」という言葉を書いた一枚の色紙が掛けてあります。私達は家庭のあり方をはじめとして教育を原点に立ち返って考え直さなければならぬ様に思います。

さて、山門高校同窓会も一万九千人の会員を擁することとなりました。学究中の学生諸君、今や社会に出て各界の最前線で活躍中の皆さん、そして現職を退かれ第二の人生を歩かされている方々等々全ゆるる層の同窓生を有することとなっております。私は同窓会の使命の一つに母校の先生や在校生達、あるいは将来山門



山門高等学校校長

吉田寛

社会の変化に対応できる学校創り

会長の板橋元昭様をはじめ、同窓会の皆様には、日頃から諸事にわたる御支援を賜り、心から感謝申し上げます。

本校は、平成十四年に創立九十周年を迎えますが、その歴史と伝統に相応しい先輩諸氏の御活躍は、在校生にとりまして誇りであり、自信ともなっています。

生徒達も学習に、部活動にと真摯に努力しており、進路の達成に於いても、地味ながら、堅実な成果を上げていくところでは、

部活動については、植又恒弘君の団体入賞や新原レビさんの全国弁論

高校へ進学を希望している子供達やそのご父兄の皆さんに誇りと自信と勇気を与えるバックグラウンドを造ってゆく大切な役割があると考えております。地域で生まれた優秀な頭脳を地域から流出させることなく地域の学び舎の中で育む環境を造ることが出来ないものか……私達に課せられた大きな命題であります。

再来年、山門高校は創立九十周年を迎えますが、私達はその時を目前に十五年振りの同窓会名簿の発刊に取り組みます。又同窓生が多く居住している関東、関西、福岡地区の支部活動の再開を計り同窓生間の情報ネットワークを充実させてゆきたいと考えております。同窓生各位のご理解ご協力を衷心よりお願い申し上げます。

大会における外務大臣賞受賞など輝かしい成績を収めています。行事では、前年度から公開にしました体育大会が、保護者や地域の方々から親しまれるようになり、生徒の取り組みにも主体性が増してきてきました。昨年度から始めましたオーストラリアでのホームステイは、今年度は、ガレン・カトリック・カレッジを研修場所に行いましたが、双方で大変好評でした。今年度から中国への修学旅行も、北京市月壇中学校高等部の生徒との交流、名所旧跡などの古い中国や北京市に代表される新しい中国の見学研修など、

生徒達の感動は予想以上に大きかったようです。このような体験を通して、本校生が、国際性と逞しさを体得してくるよう願っております。施設・設備面では、第三期工事として校舎西棟の改修工事が進行中であり、第四期工事として、体育館の改修も予定されております。グラウンドにつきましては、広さも水捌けの良さも申し分なく、生徒達も満足しております。

このように、今は、比較的恵まれた状況の中で、教育活動が行われておりますが、これからは大変です。それは、社会の変化・少子化が急激に進む中で、本校が魅力ある高校として、地域の信頼に如何に応えていかうかということです。そのために、授業研究、生徒による授業評価、シラバスの作成などに努めながら、現一年生からは、「夢発見プラン」を始め、生徒の目的意識の昂揚や「自分探し」を促しているところです。また、平成九年に新設された理数コースを充実、発展させ、理数系への進路実績を上げる中で更に評価を高め、本校活性化の牽引車にしたいと考えております。

これからは、急速な社会の変化の中で、本校は果敢に新しい取り組みを行いながら、良き伝統は堅実に受け継いでいき、山門郡に唯一の県立高校としてその責任を果たし、何時までも、同窓生の皆様の心の故郷であり続けたいと願っております。

同窓会の皆様には、これからも変わらぬ御支援、御協力を願いますとともに、皆様の御健勝と益々の御活躍を祈念しまして、校長の挨拶と致します。

「校訓碑」の石

昭和三十七年卒 江上 昂 介

母校の正門を通りすぐ右手に校訓碑が建設されたのは昭和六十二年、創立七十五周年の記念事業として計画されました。

碑の高さは人の身の丈を越し、幅は両手を上げた程の大きさで、徳山産の御影石に「至誠」「信愛」「創造」の校訓の文字が刻まれています。

当時、記念事業の推進にあたられた役員の方々が校訓碑の製作を依頼されたのは私が四十四歳の時でした。その頃を振り返りますと、母校の後輩達が毎日目にし、卒業した後は記憶の中に宿るであろう校訓碑をさしての様な表現にしたものかと思索の日々が続きました。

「玉磨かざれば光らず」ふと先人の言葉が頭をよぎり早速「石」での



表現を決心しました。私も卒業しましてはや二十六年の歳を重ねておりまして、あの中年の私は遠い記憶の中から、あの純心無垢な青春時代を懐かしく想い起こしながら、人生とは何だろうか、と柄でもない事を考えておりました。

人は歳を重ねることに成長しました変化もしていく、あの青春時代を経て社会の荒波の中で削られ磨かれそして願わくば光ってくる、そんなもんかなあ、磨かれれば磨かれる程光沢は増し角は取れ丸くなっていく。それでいい、そういうものかなあ。しかしどこかで自分らしさやその人の個性はどう育っていくのだろうか、持って産まれた個性が削り取られて埋没してしまつたら、そういう世の中もいやだなあ。そして自分自身をふり振り返り私はどう変化し、どう変化しなかったのだろうか、遠い青春時代の純真であるが故の荒々しさや角がどこかで自分の個性としてまた力強さとして、まだ残っているのだろうか等々、想いを馳せておりました。その思いをこの石に表現してみたいと取り組みました。

そこで原石のままの荒々しい肌や角を残した部分と磨き上げられた光沢のある輝いた部分、角が削られ丸みをおびたやさしい部分をひとつの石で表現してみたのです。母校に学ぶ若人が自分の個性を大切にしながらさらに磨かれ輝かしい光を放つて

ほしいと願いを込めたつもりです。碑のデザインに特別な意味を求めする必要はないのですが、これは創作する者にとつての自己満足にすぎないとしても一番楽しい事なのです。最後になりましたが碑に校訓の文字を揮毫していただきました故久富

平成十一年度 体育大会を見て

山門高校父母教師会会長 田中利光

九月十二日(日)雨天のために一日延期されて体育大会が開催された。平成十年度より、吉田校長のもと行われる公開体育大会二年目の「Second Stage」あたる「second」の開幕である。

どの競技も、ブロック対抗競技とあって選手のひとりひとりが真剣そのものであり、躍動感あふれる動きや走りは、実にはすがすがしく感じられる。

バックスタンドには、闘志天翔。柔よく剛を制す。才気煥発等の三十字に及ぶ戦いはためいていた。さらにバックスタンドは、赤ブロックは、三國志に登場する赤兎馬と戦士。青ブロックは、海神「ポセイドン」と津波の騎馬隊。黄ブロックは、「英雄」・「青春」・「真理」の象徴である「太陽神・童歌天」が競うように描かれ、グラウンドを圧倒するかのときどき迫力ある作品が、各ブロック選手団に徴を添えているようだった。選手団七百四十名の堂々の入場行進のあと、開会行事が進行された。選手宣誓、広松青ブロック長、阿久根黄ブロック長、新原赤ブロック長三名が一斉に声を合わせ、曇天の雲を突きあげんがこときの大音で宣誓を行った。

特に、充実していたのが、各ブロックオリジナルダンス、応援合戦であった。ブロック全体がひとつになり、踊り動くさまは、見ているものを感動させた。この日に向かって、炎天下の中で汗し、苦しみながら練習を重ねる中から実に見事なチームプレーが作り上げられていた。その様子を見た観客から自然と拍手が巻き起こった。苦勞努力から生まれる感動は素晴らしい。応援団、ダンス、バックスタンドの製作といい、多くの時間と汗が真夏の校内に飛び散ったに違いない。そこに思いを寄せると、青春の素晴らしさ、力強さを感じることが出来る。

最初の競技は、足並みそろえて123から順次競技が進行された。

競技は、さらに進化した。三年生の全クラスで創作したユニークな仮装行列、組体操、棒引き、川中島等が続いた。

の報道があった。しかし、本校では安全に注意しながらも聴する事なく競技が実施された。教育の姿勢は好結果を生まない。山門高校の教員団の判断に拍手を送りたい。

ブロック対抗リレーで全種目の競技は終了した。公開二年目の体育大会は、観客もテントからあふれんばかりの盛況だった。

閉会行事の最中、赤ブロック長が膝から地面に崩れ落ちた。心配したが事なきを得た。この体育大会で完全燃焼したのだろう。「自ら燃える人は、人を燃やす力がある。」彼女は、この言葉を実践した。この大会に係わっていたいただいた先生、生徒諸君に感謝と今後のさらなる健闘をお願いしたい。心地よい緊張と感動を感じた体育大会は、幕を閉じた。



同窓会総会を終えて

昭和五十二年卒 角 和広

去る五月三日に行われました山門高校同窓会総会に、多数ご出席していただき誠にありがとうございます。

これも同窓会の理事の方々をはじめ、山門高校の諸先生方、関係各位の皆様のおかげにより開催されたものと思っております。

私も(五十二年卒)にとりまして、同窓会総会が大盛会のうちに終わりました事は、開催までの苦労を忘れさせ、喜び、さらには感動へと導いてくれました。

振り返りますと、実行委員会がスタートしたころは、委員がなかなか決まらず、この先どうなることかと心配したものでした。少人数で月一回の実行委員会を開き、一歩一歩進めていきました。こうした中で、だんだん人が集まり、仕事分担が決まり、それぞれの役割を果たしていく事ができました。住所録の作成、同期会に向けての準備及び開催、チケットやポスターづくり、チケット配布、販売、前日及び当日のスケジュールづくり、立食パーティーに向けてのメニューづくり、材料仕入れ及び調理、盛りつけ、じゅうたん敷き等の会場づくり、進行等の打ち合わせ、講師招聘までのプロダクションとの打ち合わせ、当日の資料づくり、当日の受付、駐車場で車の誘導など、たくさんの方々が昭和五十二年卒の同期生の方々が確実にしかもスピーディーに行っていました。同期生の結束力、パワーを感じられずにはいられません。

角 和広

同窓会総会の成功を支えてくれたのは、やはり実行委員のメンバーであると考えております。そこで、実行委員のメンバーを紹介したいと思います。

山下賢久、近藤多賀男、加藤康志、石橋久幸、上原真、大淵洋祐、中原哲也、中村京子、深町眞由美、原田智子、河野ルミ子、松藤康彦、田嶋久美子、平川京子、溝上桂子、高橋弓子、田中耕平、松藤桂輔、山口辰也、田吉康洋の方々です。本当事務所まで、夜寒い中に集まり、同窓会総会へ向けての準備をしていただいたことを思い出します。実行委員会を重なることに人が多くなり、会のメンバーが真剣に準備をしていたのを鮮明に覚えております。メンバーが互いに結束し、次第に同窓会総会に向けて気合が入っていったのを感じたものです。

今、実行委員会及び昭和五十二年卒の同期生(約百四十名参加)による同窓会総会を振り返って、山門高校同窓会の運営に携わって本当によかったと思います。それは、同期生の再会、新たな出会い、心の通い合い、人と人とのふれあいを持つ機会を得たからです。

最後になりますが、山門高校の益々のご発展と山門高校同窓会のご活躍を祈念しまして、私の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございます。

山門高校Sクラブ(Sはサービスマン奉仕の意味)は①急速に進む高齢化社会を担う福祉マイナンドの育成②フラワーシンフォニー活動など地域への貢献③近隣地域の清掃や募金活動、福祉施設への慰問などの積極的な活動を推進するため、平成十年二月に国際ソロプチミスト柳川の認証を受け生徒会の下部組織として発足しました。

これまでの主な活動は、ユニセフ・赤十字募金、フラワーシンフォニー、学校周辺や矢部川土手の清掃、柳河首学校との交流会、筑後病院やからたち作業所への慰問などです。特に昨年度の筑後病院での活動や毎年恒例のからたち作業所でのクリスマス会が生徒たちの心にも強く残っているようです。ボランティア活動といっても特別なことが出来るわけではありませんが、筑後病院では筋ジストロフィーの患者さんたちと話し話をしたり、散歩に出たり、おやつを食べるのを手伝ったりして過ごしました。からたち作業所では重度の障害を持った学生さんや社会人の方々とともにクリスマスツリーの飾りつけをしたり、ゲームをしたり、生徒たちの手作りのお菓子をプレゼントしたり楽しい一日を過ごしました。

部活Sクラブ

顧問 雪野 和彦

た。私も生徒たちも初めは不安な気持ちでしたが、時間がたつにつれて打ち解け、何か特別なことが出来るわけではありませんが、一緒に時を過ごすことが大切なのだとわかってきました。生徒たちもよくやってくれました。さて二年間活動してきましたが、生徒会の組織として発足したとはいえ、一般の生徒の加入がほとんどありませんし、生徒たちも学校行事や勉強、部活動等で忙しく、なかなか活動出来ないという問題も出てきました。進学を中心とした学校です。施設訪問などはなかなか難しいですが、今後も地道に、そしてこれからは生徒たちが自ら計画し、活動していくようなクラブへ発展していけばと思います。



進路状況

進路指導主事 大津二三雄

2月に入り本格的な私立大入試が始まった。ここ数日、毎日40〜50名の3年生が大学入試に挑戦している。既に1日から九州産業大が始まっているし、7日から西南大、11日から福岡大が始まる。また国公立大の前期個別試験は25日から、後期試験は卒業式を終えた後の3月12日から実施される。

国公立大個別試験の出願は2月2日に締め切られた。今年度、本校では前後期併せて、佐賀大45名をはじめ、宮崎大18名、大分大13名、熊本大8名、九大4名等合計延べ177名が出願しており、例年に比べて国公立大への出願は大幅に増えた。

この原稿を書いている今日の段階では、殆ど出ない状況なので、断定的な書き方は出来ない。しかし、今年の3年生はよく努力をし、よく健闘した。もちろんこれは3年次のみのことを評して言っているのではない。山門高校へ入学して以来の3年間の努力の蓄積、努力の継続を評して言っているのである。

大学入試というのは長い人生の中で1つのイベントにすぎない。大事なのはその1つひとつのイベントに向かっ結果に挑戦する気概なのである。卒業生も2年あるいは4年後に「就職」という、新たな、そして大学入試とは桁違いに厳しい試験を迎えることになるが、今年の卒業生はその試験から決して目を反らすことなく敢然と立ち向かってその困難を克服していつてくれることを信じている。

卒業生の未来に栄光あれ!

(2月5日記)

十二年度同窓会総会へ向けて準備中

「輝く未来へイン2000」

実行委員長 島 添 静 治

母校山門高校の同窓会の諸先輩をはじめ、会員の皆様、平成12年度総会は、昭和53年卒の私達が担当いたします。何卒、よろしくお願い致します。

さて、実行委員会で総会のテーマについて話し合い、「輝く未来へイン2000」と決定しました。この意味は、輝く未来は自分達で創るもの、そして、母校と同窓会の未来も大きく発展し輝くようにとの願いを込めています。

では、諸準備の経過報告をいたします。実行委員会は21名で組織し、昨年5月から、毎月実行委員会を開いて打ち合わせを行ってきました。実行委員会の中に、広報委員会、駐車設備委員会、食事委員会、プレゼンテーション委員会を組織して準備をすすめています。

また、昨年夏には、クラス会を開催し、本年、1月2日には、可志久にて同期会を開催、参加者数、恩師5名、同期生95名が集い、青春時代の懐かしい話を花を咲かせ、近況を語り合い、交流を深めました。総会に向けての大事なステップをこのように盛大に終え、実行委員会一同、心強く思いました。

本年度総会の記念講演講師に、アグネス・チャン氏を招くことに決定しました。アグネス・チャン氏は、歌手・エッセイスト・教育学博士・日本ユニセフ協会大使として、幅広く活動されています。インドシナ難民救済コンサート、ローマ世界平和シンポジウム、北京チャリティーコ



ンサートなどの世界平和活動やカンボジア・ベトナム・ネパールなどの現場取材も豊富に体験されています。21世紀を生きるわたしたちのために、有意義なお話が聞けるものと確信しています。

ところで、総会のための予算は、チケット(入場券)の販売によって成立します。諸先輩方、会員の皆様には、チケット販売について、多大なるご苦勞をおかけすると思いますが、何卒、よろしくお願い致します。

2000年同窓会総会という大きな節目の総会を私達は大きなチャンスととらえ、新たな人間のネットワーク、人と人の絆を作り上げてゆきたいと願っています。

そして、同窓会総会の大成功と母校のさらなる発展を祈りつつ、昭和53年卒の同期一同、団結して、にぎやかに、諸準備に励んでまいります。2000年5月3日、同窓会総会への御出席を心よりお願い致します。

同窓会執行体制図



輝く未来へ in2000

始久の時間、今ここに集う。

福岡県立山門高校
同窓会総会

平成12年5月3日(祝)
山門高校体育館

2,000円

1部 同窓会総会 10:00~
2部 記念講演 11:00~
アグネス・チャン
「私のターニングポイント」
3部 懇 親 会 13:00~

2000福岡県立山門高校同窓会総会